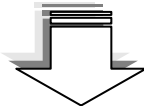


学 校 名	山形市立楯山小学校 山形市大字青柳字一本木64 TEL 686-2006 Fax 686-4283	校 長	井上 正信
		研究主任	岡崎 祐子
研 究 主 題	わくわく元気 心も体も健やかに (4年次) ～ 健康教育の視点に立った授業実践～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	本校で実践してきた楯山テーマ学習では、ふれあい交流活動を重視し、人との関わりを大切にしながらふるさとを愛する子どもの育成に努めてきた。さらに、平成12年度健康教育研究委嘱を受け、『主体的に活動し、自ら学ぶ心身ともにたくましい子どもの育成』というテーマのもと、身体的肉体的に健康であることにとどまらず、心身ともにたくましい、しかも社会的にも健康なバランスのとれた人間の育成を目指して実践研究を進めてきた。その結果、人と健康・環境と健康・食と健康という三つの柱から成る楯山テーマ学習は、下記の力の育成に有効であることが明らかになった。 ○主体的な学びを拓き、一人一人が問題意識をもって粘り強く追求する力 ○仲間や地域と関わり社会性を磨きながら共に学ぶ力 ○学んだことを自己の学びや生活に生かしていこうとする力 これらは、とりもなおさず本校の子どもに一層つけていきたい生きる力であるととらえた。昨年度は、公開研究会で子どもの育ちを大切にした単元構成と多様な交流活動も含め地域の特色を生かした健康教育を提案することができた。 今年度は、これまでの健康教育の視点を生かし楯山テーマ学習はもちろん教育課程全般を視野に入れた子ども主体の学びの創造を、授業実践を通して追及していくために研究主題を継続して学校研究を進めることにした。 ○主題のとらえ方について わくわく→心を躍動させながら、他と関わり主体的に活動する子ども 元 気→肉体的・精神的にたくましく活力ある生き方ができる子ども  心も体も健やかに伸びる子ども 楯山テーマ学習 教科・道徳・特活 ◇子ども主体の学習 ◇地域の自然・人に関わりながら進める学習 ◇体験を通した問題解決型の学習 ◇総合的な学習の時間・生活科の時間 ◇子ども主体の学習 ◇各教科領域の目標に迫る学習 ◇学び方を学ぶ学習 ◇教科・道徳・特活の時間		
研 究 目 標	「わくわく元気 心も体も健やかに」伸びる子どもの実現をめざし、健康教育という視点で単元構成を工夫し、適切な支援および評価の在り方について授業実践を通して追及する。		

授業づくりの視点	視点1) 問題意識を持ち、主体的に迫及する子どもを育成するため、子どもの興味関心実態の把握に努め、子どもの思いと教師の願いを融合させた単元構成の工夫 視点2) 思いやりや社会性、そして、たくましさを育成するために、異学年交流や地域人材（教育支援ボランティア）の効果的な活用を中心とした関わり方の工夫 視点3) より健康的に生きる力を育成するために、子どもの学びを確かに見取り、適切な支援に生かす工夫	
研究の内容と方法	(1)研究の内容 ◇ 健康教育として実践してきた楯山テーマ学習の活動を子どもの実態と地域の特性に合わせて整理精選しながら単元を再構築していく。 ◇ 教育課程全般にわたって健康教育という視点に立ち、単元構成の工夫・提案を行う。 ・学級指導や保健学習で健康に関する内容、知識・理解面の焦点化、重点化の図り方 ・心の教育をさらに推進するための道徳との関連のあり方 ・各教科で子どもの主体的な学びを引き出す授業実践 ◇ 地域と学校、両者にとって有効な交流の仕方を検討し、異学年交流や教育支援ボランティアを各教科・道徳・特活、保健指導でも推進した、授業実践を試みる。 ◇ 評価に客観性を持たせ、支援を工夫し指導に生かす。 ・評価規準（楯山テーマ学習：追求する・共に学ぶ・創造する）に照らして見取る。 ・評価は常に指導に生かすためのものと捉え指導に生かす。 ・目に見えるものと見取りにくいものの評価を意識し、一人ひとりを見る目を大切にしていく。 (2)研究の方法 ◇ 授業研究会を通して実践研究を推進する。 ◇ 地域人材（教育支援ボランティア）との連絡調整を図りながら、地域との連携を深めていく。 ◇ 研究便り『いずみ』を発行し、共通理解を図りながら研究を推進する。 ◇ 健康教育で獲得した手法・機能を他の教科領域でも活用していく。 ・日常的な活動を通した、健康教育実践校としての環境づくり ☐ なかよしタイム ☐ 読書タイム ☐ 給食カロリー掲示 ☐ 運動の日常化 ☐ 健康いきいきカレンダー ☐ 子どもの変容把握（体力・身体・心・健康への意識） ☐ あいさつ運動 ☐ 歯磨きの励行	
研究の計画	4 月 研究の構想と研究計画 5 月 各学年部の検討 6 月 実践研究 7 月 8 月 9 月 大研	10 月 大研 11 月 大研 12 月 研究の反省 子どもの変容把握 1 月 実践報告集作成 2 月 同 発行 3 月 次年度の研究の検討